41　キャンドルファイア

小さくて静かに燃えるキャンドルの火は、心を清らかにしてくれます。その火は深く心に刻み込まれることでしょう。

キャンドルファイアは「灯火のつどい」とも呼ばれます。

グループの協同精神を高め、友情と豊かな情操を育て、感謝と思索の場ともなります。

時　期	通　　年	**所要時間**	60分～100分程度 （準備時間含まず）	**活動場所**	体育館、多目的ホール 研修室
対　象	小学生以上	**人　数**	体育館…２０人以上～２００人 多目的ホール…１００人以下		

準備物

自然の家で貸し出すもの		**団体・個人で準備するもの**
□火の神・火の子・火の守の衣装 □冠 □火の神が使う杖 □キャンドルファイア用トーチ □小さいろうそくを立てる小皿	多目的ホール用具庫２	□ろうそく ※きのと物産に注文することができる。 □トーチに点火するためのマッチまたは点火用ライター □使用済みろうそくを回収・持ち帰るための入れ物
□式典用 CD・レク用の音楽テープ □CD ラジカセ	事務室	
□マイク □キャンドルファイア用燭台 □燭台の下に敷くシート □消火用バケツ	体育館 多目的ホール 研修室	

活動の手順

事前準備

1　児童生徒の役割分担・グループ編成

(1) セレモニーの役割（火の子・火の守など）や司会進行、ゲーム担当、音楽担当など、団体の予定している内容に合わせて分担を決める。

(2) 必要に応じて、セレモニーの練習・スタンツや出し物の練習等をおこなう。

※役割分担や第Ⅰ部～第Ⅲ部については P.６１～、スタンツについては P.６５を参照

2　歌やフォークダンス等の指導

(1) 第Ⅲ部で歌う「今日の日はさようなら」などを事前に練習する。

(2) 第Ⅱ部で楽しむダンスやレクリエーションも必要に応じて練習する。

3　引率者の役割分担

(1) 火気の現場責任者を決める。

(2) 司会進行補助やセレモニーの役割（火の神等）を決める。

活動の実際

1　会場準備をする。

(1) 放送器具の設定

(2) 燭台やトーチ、キャンドル用小皿の準備

2　活動例

＜第Ⅰ部　迎え火のつどい＞…つつしみ深い気持ちで、つどいの聖火を迎える。（静）

＜第Ⅱ部　交歓のつどい＞…楽しく、交流を深めて！（動）

＜第Ⅲ部　送り火のつどい＞…静かに、心の糧を確認し、明日への希望をもつ！（静）

事後

後片付けをする。

(1) ろうそくの火を完全消火する。

(2) 用具は返却する。

備　考

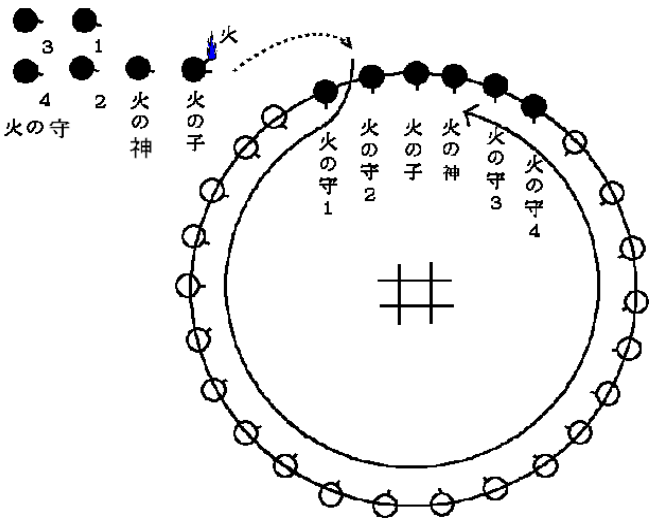
１　どの会場を使うか、事前に同日利用団体と調整します。

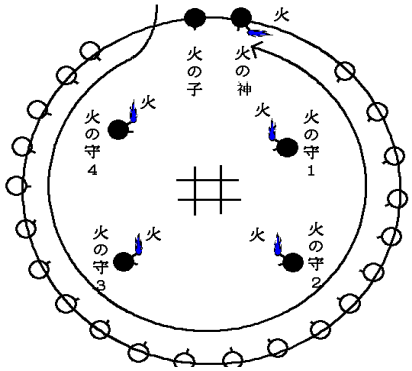
２　キャンドルファイアのろうそくを注文する場合は、その旨を「食事等申込書」に記載してください。

キャンドルファイアの進行例

役割分担	内　　容	人数	備　　考
火の神	セレモニー第Ⅰ部と第Ⅲ部で「火の神の言葉」を言い、点火宣言をする	１人	団体の代表者や年長者など
火の子	セレモニー第Ⅰ部と第Ⅲ部　トーチを持ち、先頭で入場する	１人	
火の守	セレモニー第Ⅰ部で分火の時に火の神より火をもらう 〃　　誓いの言葉を言い、点火する セレモニー第Ⅲ部で分火の時の火の神より火をもらう 〃　　感想や希望、抱負などを言う	４人	第Ⅰ部と第Ⅲ部で担当を代えてもよい
火の司	全体司会進行、第Ⅱ部のプログラミング	１～４人	

第Ⅰ部　迎え火のつどい　　（１０～１５分）

展　開	プ　ロ　グ　ラ　ム　の　進　行	備　考
１ 係準備	火の神等配置	
２ 集　合	全員ロビーに集合（1人１つキャンドルを持つ）	
３ 入　場	曲が流れたら、全員静かに入場 中央の燭台を囲むように円になって腰をおろす。	BGM：静かでゆったりとした曲 例えば「シンキングオブユー」
４ 開会の言葉	火の司：「少年自然の家の一日が終わろうとしています。 まもなく私たちの前に、キャンドルのともし火がゆっくりと近づいてきます。その火は、私たちをほのかに照らしてくれるでしょう。では、聖なる火を迎えましょう。」	
５ 聖火入場	円の中に入り左まわりにゆっくりと一巡して、位置に付く。 入場整列後、火の子は火の神にトーチを渡す。  	BGM：おごそかで広がりのある曲 例えば「ジュピター」

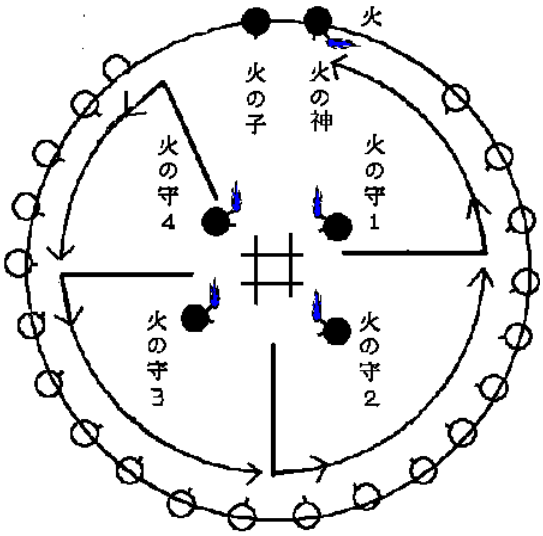
6 火の神の言葉	火の司：「私たちの友情の火を迎えることができました。ここで火の神からお言葉をいただきます。」 火の神：「　(火の歴史、火のすばらしさなど)　」 火の子から渡されたトーチを上にかかげて、一歩前に出てから、ゆっくりと大きな声で話をする。	
7 分　火	火の司：「火の神から火の守に聖なる火を分火していただきます。」 火の守は順に分火してもらい、燭台のまわりにならぶ。  	
8 火の守の言葉	火の司：「火の守が誓いの言葉を述べます。」 火の守は順に一歩前に出て、トーチをかかげたままで誓いの言葉を述べる。 ①勇気の火：私たちは、何事にもたくましい勇気をもって立ち向かうことを誓います。　名前 ②友情の火：私たちは、ここで生まれた友情を大切にすることを誓います。　名前 ③希望の火：私たちは、いつまでも希望の火を燃やし続け、明日を信じて進むことを誓います。　名前 ④奉仕の火：私たちは、思いやりの気持ちをもって人のために尽くすことを誓います。　名前	
9 点火宣言	火の子は、火の神からトーチを受けとる。火の子、火の守は中央に進み出て、トーチを高くかかげる。 火の司：「火の神から点火を宣言していただきます。」 火の神：「点火！」 中央の燭台のろうそくに火を灯す。	
10 点　火	火の司：「今、私たちの友情の火が灯されました。これは私たちの情熱であり、未来を照らす明るい火です。私たちに元気と勇気を与えてくれることでしょう。しばらくキャンドルの火を見つめましょう。さあ、このキャンドルの火が、いつまでも心に燃え続けるように、楽しいつどいをはじめましょう。」	BGM：夢のあるきらめく曲 例えば 「ホールニューワールド」

第Ⅱ部　交歓のつどい　（４０～６０分）

司会:「いつまでも思い出に残るすばらしい夜となるよう、みんなでつくりあげていきましょう。
次は交歓のつどいです。ゲームや班ごとの出し物を通して、楽しく過ごしましょう。」

※歌・レクリェーション・フォークダンス・出し物やスタンツなど、全員で楽しめるように事前に準備をしておく。（Ｐ．６５参照）

第Ⅲ部　送り火のつどい　（１５～２０分）

展　開	プ ロ グ ラ ム の 進 行	備　考
1 火の神等整列	参加者全員、ろうそくを立てたキャンドルの皿を持って輪になる。 火の神、火の子、火の守は正面に整列。 火の子は中央のともし火を残して、全部消す。 火の司:「神秘的なともし火をみなさんにお分けします。」	ＢGM： 静かで夢のある曲 例えば「ホールニューワールド」
2 キャンドルサービス	火の子は、中央に燃えているろうそくをとり、火の神にわたす。 火の神は、火の守に分火する。火の守は、燭台の周りに位置してから、キャンドルサービスをする。  	
3　献詩	火の司:「ひとつひとつは小さな明かりですが、みなさんのキャンドルに火がともると、こんなに大きな輪ができました。ここで、代表の人から詩の朗読をしてもらいます。」 詩の朗読：「　　」	献詩は省略してもよい。 BGM 例「タイムトゥセイグッバイ」
4　火の神の言葉	火の司:「火の神からお言葉をいただきます。」 火の神：「（今日一日を省みて、希望に向かって前進するような内容の話をする。）」	

5　火の守の言葉	火の司:「火の守が言葉を述べます。」 火の守は順に一歩前に出て火を高くかかげたままで感想等を述べる。 ※隊形は、第Ⅰ部と同様。 ①野外炊さんで、力を合わせてできたことがよかったです。 名前 ②みんなが係の仕事をとても真剣にやっていたのがよかったと思います。　名前 ③フォークダンスがとても楽しかったです。これからもたくさんみんなと一緒に活動したいです。 名前 ④今のキャンドルファイアの輪の光がとてもきれいで感動しました。ずっと忘れないと思います。 名前	
6 閉会の言葉	火の司：「楽しいつどいの間、私たちを見守ってくれていたキャンドルの火も静かに消えようとしています。この火をもう一度見つめましょう。……いろいろな事が頭に浮かんでくることでしょう。やがて、この火は消えますが、みなさんの心の中で燃え続け、どんなときも勇気と希望を与えてくれることでしょう。 みなさんの友情がさらに深まることを祈りながら、最後にみんなで“今日の日はさようなら”を歌い、キャンドルファイアを終わりにします。」	
7 別れの歌	歌：「今日の日はさようなら」	ＢGM：「今日の日はさようなら」
8 友情の握手（退場）	入場の逆まわりで、握手しながら、火の子・神・守が退場。 その後、握手しながら全員退場。	
9 後片付け	・　火の始末を確実に行う。 ・　自然の家から借りたものは、速やかにあった場所に返却する。 ・　自然の家から借りたものに不備があった場合は、速やかに連絡をする。 ・　使用済みキャンドルは、団体が責任をもって持ち帰る。	

≪資料≫

ス タ ン ツ （寸劇又は即興劇）

スタンツとは・・・・・１　グループ全員でつくるもの
　　２　グループ全員で演ずるもの
　　３　即興的につくるもの
その効果は・・・・・・１　創造性をみたすことができる
　　２　精神の向上が約束される（浄化作用がある）
　　３　成就感を抱かせる

１　人　数　　グループ５人～１０人

２　テーマ

(1) テーマをあらかじめ決めて提示する。
・リーダーがテーマを決める。　　〈例〉今日のテーマは「夏」です。
・グループ全員でテーマを決める。　〈例〉場所が海に近いので「海」にしましょう。

(2) 時事問題
・流行語　　・〇〇年１０大ニュース　　・時の人　　など

(3) 名作・童話・偉人伝・名場面
・その後の浦島　・シンデレラ　・桃太郎　・西遊記　など

(4) 歌・音楽
・流行の歌やみんなが好きな歌に振り付け　　・シンキングゲーム的にやってもよい。

(5) その他
・体操スタンツ　　・サーカスのまね

３　ドラマ作りの例　いずれも全員参加で！

(1) テーマを決め、「起承転結」あるいは「はじめ・なか・おわり」のおおまかなストーリーをつくる。
(2) ストーリーをもう少し詳しくし、落ちをつけ、役を決める。
(3) 即席、即決、自由な話し合いの中でドラマつくりを進めていく。

短時間でまとめあげ、
発表は５～７分くらいに
（長すぎないように）

４　準　備

(1) 衣装は簡潔に。
(2) 大道具・小道具は工夫して。
(3) 効果（音と光）は身近なものを使って。
(4) リコーダー、鍵盤ハーモニカ、ギターなどで音響を入れるのもおもしろい。
(5) あまり大げさにならぬように。